

平成22年 6月 7日現在

研究種目：若手研究 (B)
 研究期間：2008～2009
 課題番号：20700653
 研究課題名 (和文) メディア・リテラシー教育用リソースガイドの拡充と
 実践コミュニティサイトの構築
 研究課題名 (英文) Development of the Resource Guide and Teachers' Community site for
 Media Literacy Education
 研究代表者
 中橋 雄 (NAKHASHI YU)
 武蔵大学・社会学部・准教授
 研究者番号：80389064

研究成果の概要 (和文)：本研究では、「メディア・リテラシー教育用リソースガイド」と「実践コミュニティサイト」の開発と運用を行った。そして、それらのメリットと改善すべき点について調査した。その結果、適切な支援体制が整うことによって、教師はメディア・リテラシー教育をしやすくなることが明らかとなった。メディア・リテラシーの実践を普及させるための教師支援のモデルを得ることができた。

研究成果の概要 (英文)：In this study, the authors developed and managed the teachers' guide and community site for media literacy education. And we investigated the merit and demerit of them. As a result, we found out that the appropriate support system made teaching the media easy for teachers. We could get the model of teachers' support system to spread the media literacy education.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：メディア・リテラシー論、教育学

科研費の分科・細目：教育学・科学教育

キーワード：メディア・リテラシー、教育用リソース、リソースガイド、教材開発、コミュニティサイト、教師の成長

1. 研究開始当初の背景

2003年 PISA 国際調査 (OECD 生徒の学習到達度調査) で、わが国の順位が下がったという結果を受け、近年、わが国では「学力を高める」という課題が重視されている。「学力とは何か」ということについては、これまで

にも論じられてきたが、暗記・計算のみで獲得されるものではなく、社会的文化的環境・他者との相互作用を通して育まれるものであるとされている (大田 1990)。

文部科学省 (2007) は、2007年4月、小学校6年生と中学校3年生を対象に全国学力・

学習状況調査を実施した。この調査の特徴のひとつに、「知識」に関する問題だけでなく「活用」に関する問題を出題したことが挙げられている。出題された問題には「環境問題に関わる新聞記事の内容を考えるもの」や「相手を想定した書籍の広告カード表現を考えるもの」など、社会に働きかけるメッセージを発する新聞や広告といったメディアの情報を読み解くものや、メディアで自分の意見を表現するものがあった。

これは、日常生活における課題解決の場面、すなわち、「知識」を「活用」する場面とメディアとの関わりは、切り離して考えることができないということを示している。つまり、他者との相互作用の中で、映像と言語を組み合わせてメッセージを構成する統合的な表現能力・コミュニケーション能力を育成することが、現代社会においては重要視されているということである。

このような学力を高めるために、中橋ら(2006)は「学習者が、メディアで表現し、伝え合う活動は、学力を高めるための教育方法のひとつとして重要な役割を果たす」ことを指摘している。目的意識をもって何かを調べ、表現・伝達するために、知識やスキルが活かされる。また、他者と互いに影響を与えあう体験を通じて、子どもは学ぶ意義を感じることができる。

今後、メディア制作学習に取り組む学校が増えると予想されるが、一般に教師はこれまで、そうした指導をした経験が少ないため、教育方法の未開発、学習リソース不足、教師支援の不足などが問題となる。特に、レクチャースタイルの一斉授業に慣れている教師は、子どもが主体的にメディア制作に取り組む授業設計・指導方法をイメージしにくいと考えられる。

そこで、研究代表者(中橋)は、文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(B)課題番号:18300297)の支援を受けメディア・リテラシー教育用リソースガイドを開発した。教材は、Adobe Flashを用いて開発したマルチメディア教材で、Webで公開されており、学習リソースはダウンロードできるようになっている。本研究は、その拡充を行うものである。現状は、映像・言語・音楽を組み合わせた統合的な表現能力を育成するモデル実践が解説されているが、これはメディア・リテラシーの一側面でしかない。多面的な構成要素をカバーするには、モデル単元を追加する必要がある。さらに、実践に取り組む教師がモデル実践を発展させるアイデアを出し合うコミュニティサイトを構築し、リソースガイドの充実を図る。このリソースガイドは現場教師に対する実験的な調査では肯定的な評価を受けたが、実際にリソースガイドを使って実践できるかについては検証できて

いない。本研究では、上記の拡充を図るとともに、その評価検証を行っていく。

2. 研究の目的

そのような背景のもとで、本研究では、2つの目的を設定した。1つは、「メディア・リテラシー教育用リソースガイド」を拡充させ、その有効性の評価・検証を継続的に行うことである。もう1つは、リソースガイドを参考に実際に授業実践に取り組んだ教師が、リソースガイドを発展させるために意見を交流させるWebサイトである「実践コミュニティサイト」の構築を行うことである。

3. 研究の方法

まず、メディア・リテラシー教育用のリソースおよびリソースガイドに新しいコンテンツを追加し、Webサイトとして公開した。そして、実践コミュニティサイトを構築し、実践の結果をWebサイト上で報告しあう場を作った。それらを実際に教師に活用してもらい、評価・検証を行った。

システムは、有料でサービスが提供されているSNSを利用した。(図1)このシステムは、登録者のみがログインできるサイトで「写真を掲載できる日記機能」、「トピック機能」、「ファイル共有機能」、「メッセージ機能」、「アンケート機能」、「プロフィール機能」などの機能を利用できる。



図1 コミュニティサイト

実践コミュニティサイトに参加する教師は、デジタル表現研究会(D-project: <http://www.d-project.jp>)に参加する小学校教師に対してメールリストで募集した。そして、6名の教諭に実践協力者になっていただいた。また、リソースガイドのモデル実践者と研究者2名(うち1人は大学院生)が、アドバイザーとしてSNSに参画した。実践協力者には、はじめに、以下の手順に従うよう依頼した。

(1) リソースガイドの閲覧
リソースガイドに公開されているコンテンツを閲覧し、モデル実践を学ぶ。

(2) 実践計画の検討

リソースガイドを参考に実践計画を検討する。モデル実践と同様の実践にするか、学年や単元などの実態に応じてアレンジする。

(3) 授業計画の公開・更新

素案の段階から授業計画を「日記機能」で公開し、補足があれば加えていく。

(4) 実践の記録を公開

実践した日ごとの簡単な記録を「日記機能」で書く。

(5) 他の実践記録の閲覧・コメント

実践者同士で相互に日記を閲覧して他者の実践を参考にするとともにコメントする。

(6) 質問・要望をコメント

リソースガイドに対する質問・要望などをグループ内の「トピック機能」で書き込み、アドバイザーや他の実践者と話し合う。

4. 研究成果

まず、メディア・リテラシー教育用のリソースおよびリソースガイドに新しいコンテンツを追加し、Web サイトとして公開することができた。次に実践コミュニティサイトを構築し、実践の結果をWeb サイト上で報告しあう場を作ることができた。コミュニティサイトに参加した教師は、授業デザインに関して意見交流を行い、相互に授業力を磨きあう交流が生まれた。

「トピック機能」でコミュニティサイトに対する感想を尋ねたところ実践協力者からは、「同じような悩みを以前に持った方からアドバイスをもらえたことはありがたかった」、「メーリングリストと比べて、カテゴリーごとに整理がされていて、全体の流れが分かりやすいという面は、とても良かった」、「他の先生の実践を参照できたり、過去に実践経験のあるアドバイザーに相談できたりする仕組みは、大変嬉しいことであり心強い」などおおむね肯定的なものであった。

しかし、ある実践協力者からは、次のような感想も述べられた。「欲を言えば、各自の実践の報告が中心で、お互いにアドバイスをし合う場面が少なかったの、横のつながりをもう少し築ければいいなと思いました。」実践時期にズレがあり頻繁にSNSにアクセスしていた時期が異なっていたため、期待していたほどには教師同士の相互作用が生じなかった。今後は、相互作用が活発化した状況の事例も検証する必要がある。

以上のように、リソースガイドおよびそれと連動したコミュニティサイトのメリット・デメリット、改善のポイントなどに関するデータを収集することができた。そして、適切な支援体制が整うことによって、教師はメディア・リテラシー教育を実践しやすくなることが明らかとなった。

これまで、子どもが主体的にメディア制作

に取り組む授業設計・指導方法をイメージできない教師は、先進的なメディア教育事例に対して、「あの学校だからできる」、「あの先生だからできる」というようなことを理由に実践することを敬遠する傾向にあった。しかし、本研究では、実践を支援する教育リソースとリソースガイド、そして、実践コミュニティといった適切な支援体制が整うことによって、複数名の実践者がモデル実践と同様の実践に取り組むことができた。このことは、メディア・リテラシーの実践を普及させるための教師支援のモデルを得ることができたという点で大きな意義があるといえるだろう。

参考文献

大田 堯 (1990) 学力とはなにか. 国土社, 東京

文部科学省 (2007) 全国学力・学習状況調査の概要について.

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm

中橋 雄・中川一史・豊田充崇・北川久一郎 (2006) 学力を高めるメディア教育の理論と実践. 日本教育工学会第 22 回大会論文集, pp. 595-596

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

① 中橋 雄 (2010) メディアの広場：メディア・リテラシーと視聴覚教育. 『視聴覚教育』財団法人日本視聴覚教育協会 pp. 30-31 査読無

② 中橋 雄 (2009) 社会的コミュニケーションとしての言語活動—メディア表現学習の可能性—. 『学習情報研究学習』ソフトウェア情報研究センター 通巻 208 号 pp. 38-39 査読無

③ 中橋 雄 (2009) 新学習指導要領・「社会と情報」における「メディアの意味」をどう捉えるか. 『ICT・Education』日本文教出版 No. 41 pp. 1-5 査読無

④ 中橋 雄・盛岡 浩・前田康裕 (2008) メディア制作の授業設計・指導方法を視覚的に提示した教師用教材の開発. 日本教育工学会論文誌 32(suppl.) pp. 21-24 査読有

[学会発表] (計 9 件)

① 中橋 雄 (2009 年 9 月 20 日) メディア・リテラシー教育用リソースガイドと連動し

た SNS. 日本教育工学会第 25 回全国大会講演
論文集 発表場所：東京大学

② 中橋 雄・中川一史・奥泉 香 (2009 年
9 月 13 日) メディア・リテラシー教育を阻害
してきた要因に関する調査. 第 16 回日本教
育メディア学会年次大会 発表場所：新潟大
学

③ 前田康裕・中川一史・中橋 雄・佐藤幸
江 (2009 年 9 月 12 日) メディア創造力を育
む活用型学習のプロセス 第 4 学年「新聞記
者になろう」. 第 16 回日本教育メディア学会
年次大会 発表場所：新潟大学

④ 中橋 雄・盛岡 浩・前田康裕 (2008 年 10 月
19 日) メディア・リテラシー教育の指導方法
を学び合う SNS の構築. 第 15 回日本教育メ
ディア学会年次大会 発表場所：愛知淑徳大
学・愛知

⑤ 盛岡浩・中橋雄・久保田賢一 (2008 年 10
月 19 日) メディア教育を支援する Web 教材
の質的評価. 第 15 回日本教育メディア学会
年次大会 発表場所：愛知淑徳大学・愛知

⑥ 盛岡浩・中橋雄・前田康裕 (2008 年 10 月
13 日) スライドショー制作実践を支援するマ
ルチメディア教材の形成的評価. 日本教育工
学会第 24 回大会 発表場所：上越教育大学・
新潟

⑦Yu NAKAHASHI, Hiroshi MORIOKA, Yasuhiro
MAEDA, Toshiyuki MIZIKOSHI (2008 年 9 月
26 日) Development of a Web-based Teacher's
Guide for Media Literacy Education.
International Conference for Media in
Education 発表場所：Osaka, Japan: Kansai
University

⑧Hiroshi MORIOKA, Yu NAKAHASHI, Yasuhiro
MAEDA (2008 年 9 月 26 日) Formative
evaluation of Multimedia based learning
material Hands-on activity in Photo video
Production. International Conference for
Media in Education 発表場所：Osaka, Japan:
Kansai University

⑨ 中橋雄 (2008 年 7 月 19 日) メディア・リ
テラシーの教育方法を学ぶマルチメディア
コンテンツの開発. 武蔵社会学会 発表場
所：武蔵大学・東京

〔図書〕 (計 1 件)

中橋 雄 (共著・ほか 21 名) (2008) 『ICT 教
育のデザイン』日本文教出版 pp. 177-195

〔その他〕

ホームページ等

[http://medialiteracy.matrix.jp/resource
guide/](http://medialiteracy.matrix.jp/resourceguide/)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中橋 雄 (NAKASHI YU)

武蔵大学・社会学部・准教授

研究者番号：80389064

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者